

経営比較分析表（令和元年度決算）

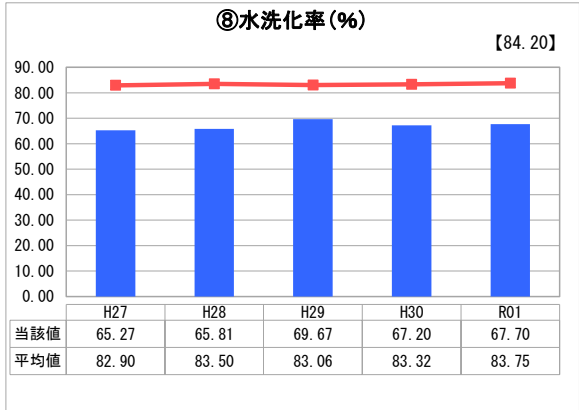
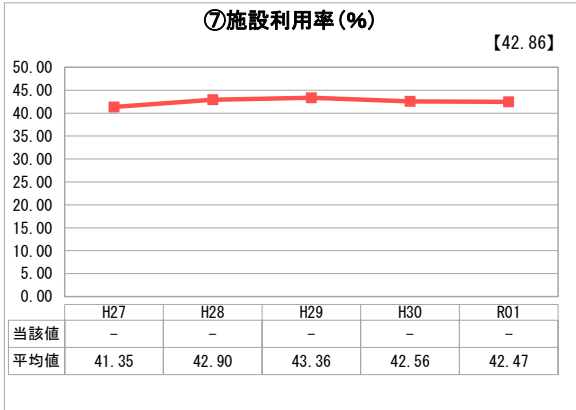
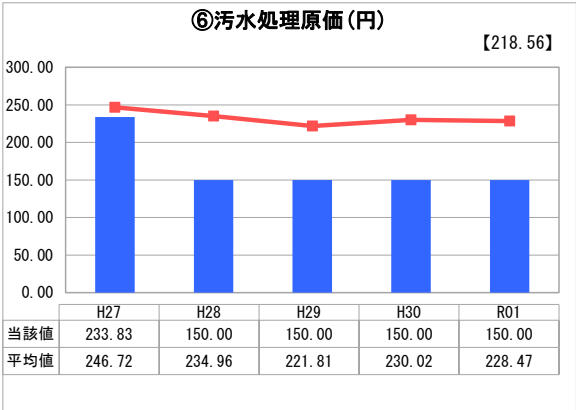
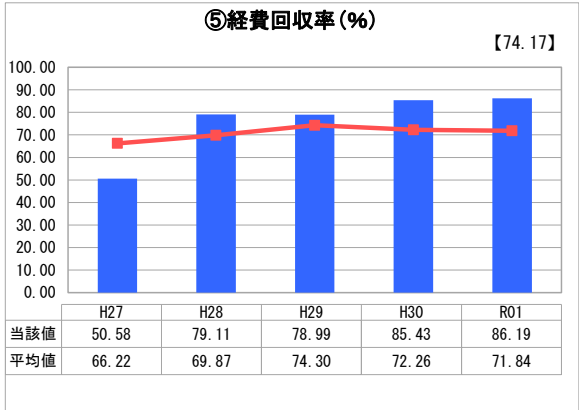
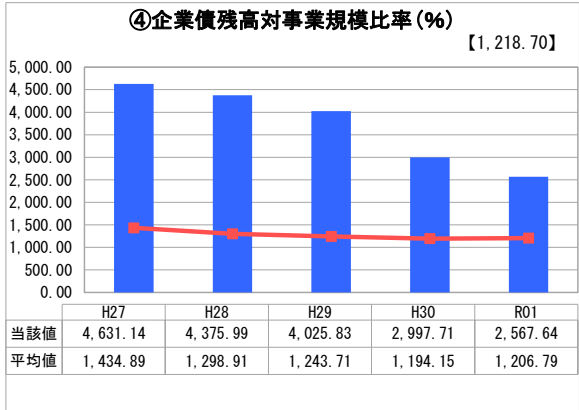
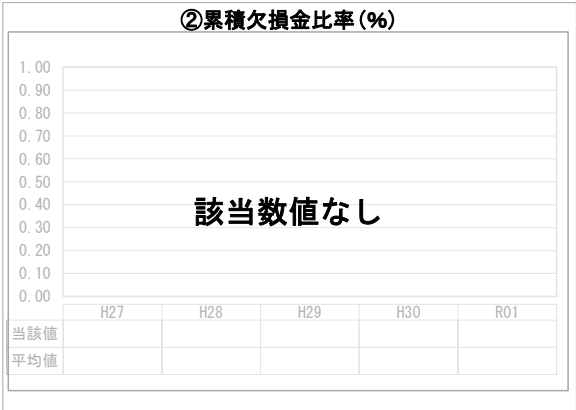
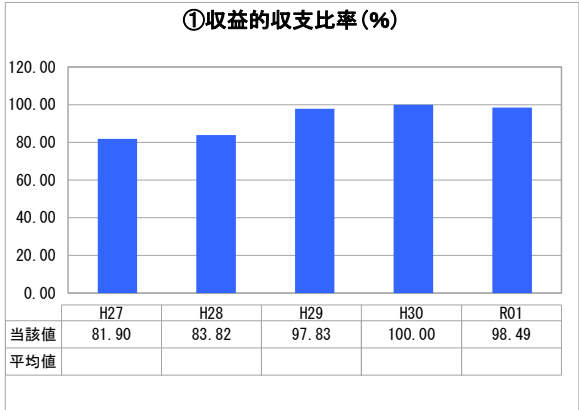
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	12.36	98.05	2,145

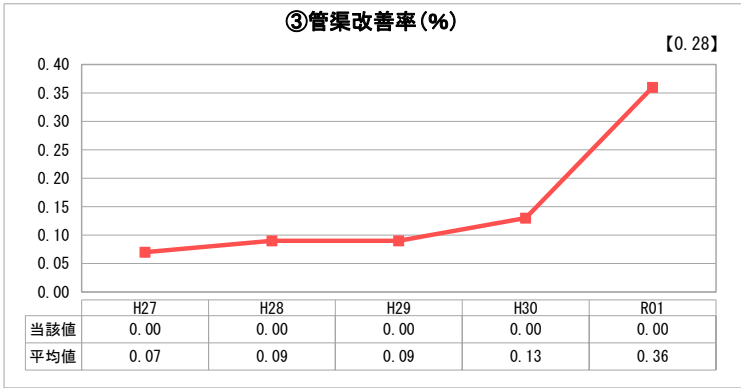
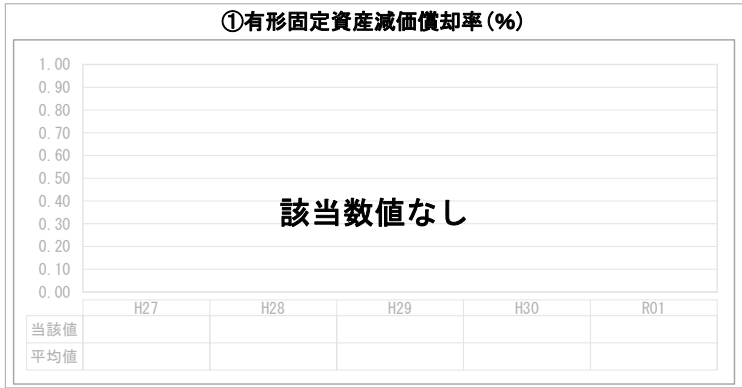
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,920	38.64	489.65
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,328	1.08	2,155.56

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
地方債償還金がわずかに上昇したため、わずかに比率が下がった。

④企業債残高対事業規模比率
地方債現在高の減少及び一般会計負担額の増加により減少した。

⑤経費回収率
使用料収入は増加したものの、汚水処理費も同様に増加したため、比率は昨年度とほぼ同じである。

⑥汚水処理原価
使用量が増加したものの、汚水処理費も増加しているので、例年どおりの原価である。

⑧水洗化率
接続件数は増加しているものの、区域内人口が減少しているため、比率にほとんど変化はない。

2. 老朽化の状況について

現在のところ、管渠等の老朽化は見られない。

全体総括

収益的収支比率や経費回収率など昨年度とほぼ同様の水準である。企業債残高対事業規模比率は減少傾向を維持している。経営状況の悪化は見られないが、今後も接続促進や経費節減を行い、計画的で安定的な経営を実施していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。